

弘前大学資料館 第22回企画展 「“装う”アフリカ —世界との交錯のなかで—」

近 藤 史¹
 杉 山 祐 子¹
 白 石 壮一郎¹
 曾 我 亨¹
 羽 瀧 一 代¹

はじめに

弘前大学では1980年代からアフリカ研究が盛んである。地方大学としては珍しく、現在も人文社会科学部に所属する研究者5名が人類学・社会学系のフィールド調査研究に従事し、被ばく医療総合研究所と医学部保健学科に所属する研究者5名が自然放射線被ばくの実態解明に取り組んでいる。今回の企画展では、とくに人類学・社会学系の研究で得られた知見を地域に広く知っていただくことを目指した。

1. 背景と目的

アフリカの人たちのオシャレやアートは、世界との交錯のなかで自由に花開いてきた。古くはインド洋交易を通じたイスラーム世界との繋がりや、植民地期のヨーロッパ宗主国との関係、また近年では急速にすすむグローバル化の影響が、装いの端々に現れている。他地域のモノや流行を取り込みつつ、自在にかつ創造的に生みだされる装いは、一般に流布する「閉じている」「伝統に固執している」アフリカのイメージとはかけ離れている。この企画展では、これまで蓄積されてきた弘前大学人文社会科学部のアフリカ研究の成果をふまえて、そうしたアフリカの生活や文化の魅力を紹介し、新たなアフリカ観を伝えることを目的とした。

2. 実施内容

2019年6月1日から7月20日まで、弘前大学資料館において企画展「“装う”アフリカ —世界との交



写真1 企画展の様子



写真2 楽器(上段)や土産物アート(下段)の展示

¹ 弘前大学人文社会科学部

錯のなかでー」を実施した。筆者らがフィールド調査中に集めた資料のなかから、“装う”をキーワードに、さまざまな素材とデザインを駆使してつくられた12カ国100点余りを選んで展示した。アフリカの人たちが日常のオシャレで楽しむ布や衣服、装身具のコーナー、そして暮らしと民話をカラフルに彩るアフリカン・アート（土産物や絵画、彫刻、楽器など）のコーナーを設け、モノを通してアフリカと世界のつながりを紹介した。グローバル化の最前線にあるアフリカの現在をオシャレやアートから読み解くことで、アフリカに馴染みのない人も楽しめるよう工夫した。

さらに、展示で伝えたアフリカの現在をより深く体感してもらうために、次の3つの参加型イベントも併せて実施した。(1)「音を装う」親指ピアノ演奏家 サカキマンゴー トーク & ライブ(2019年6月4日)、(2)「布で装う」カンガ布の着方・使い方ワークショップ(2019年6月26日)、(3)「装う精霊」金山麻美氏 アフリカ絵巻ギャラリートーク(2019年7月5日)。参加者たちは、アフリカの音を聴き、布を身にまとい、精霊を描くことを通して、アフリカの生活世界に分け入った。



写真3 「音を装う」サカキマンゴー氏によるアフリカの楽器熱演



写真4 「音を装う」トークは楽器を生んだ文化や社会へと広がる



写真5 「布で装う」布を広げてワークショップ開始



写真6 「布で装う」カンガ布を2枚巻いてドレスに挑戦



写真7 「装う精霊」金山麻美氏によるリランガ絵画の紹介



写真8 「装う精霊」日本&タンザニアの人たちが絵に絵をつなげて会話しアート・トーク絵巻

なお、この企画展は、弘前大学人文社会科学部と日本アフリカ学会東北支部会の主催、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターおよびNPO アフリック・アフリカの共催で実施した。また、日本政府（外務省）が認定する TICAD 7 パートナー事業にも採択された。

おわりに

この企画展の様子はラジオや新聞²にも取り上げられ、約2か月にわたる会期中、838名と多くの来館者で賑わった。来館者の内訳をみると、人類学や民俗学、博物館学などを学ぶ弘前大学生だけでなく、附属小中学校の生徒や一般の方々も多い。多様な人びとがアフリカをより身近に感じて理解を深める一助となった。今後も、我が国とアフリカの関係深化や、弘前市のグローバル化に寄与するような活動を展開していきたい。

² FMアップルウェーブ「きらり火曜日、生中継」(2019年6月11日)、「東奥日報」(2019年6月27日)



【写真左】タンザニアの親指ピアノ。小さな箱に金属の棒（鍵盤）を取り付け、弾くと柔らかい響きが出る【同右】イスラム教徒男性の帽子。東アフリカで「コフィア」と呼ばれる、色とりどりの刺繍が丁寧に施されている



アフリカの様々なアクセサリー。首、手、腕、足などに身につけられる。写真はタンザニアの伝統的なアクセサリー。首、手、腕、足などに身につけられる。写真はタンザニアの伝統的なアクセサリー。

アフリカの「装い」鮮やか



アフリカの国々の民族衣装。人びとは宗教儀式や結婚式にこのような正装で出掛けるという

弘大で衣装や楽器展示 来月20日まで

弘前
アフリカの生活や文化の魅力を紹介する企画展「アフリカ―世界との交錯のなかで―」が、弘前市の弘前大学資料館で7月20日まで開催されている。世界との交差の中で、自由な表現力のアフリカの「装い」の鮮やかさが芸術者の目を引いている。展示は、弘前大のアフリカ研究者らがこれまで買い集めたもの、オレンジやアキバなどが美しい衣装、身振る材料で作ったアクセサリー、手作り感が伝わる楽器などが多数あり、企画した弘大人文社会科学部の杉山孝教授、近藤史郎教授によると「アフリカのおしゃれやアートは、古くからのヨーロッパやイスラム世界とのつながりの表れであり、近代のグローバル化の影響も受けている」という。杉山教授と近藤教授は「アフリカと世界、日本はつながっており、アフリカが持つ歴史や文化を学んでほしい」と呼びかけた。開催は午前10時～午後4時。日曜・祭日は休館。無料。問い合わせは資料館（0192-834-2111）。

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。



「装う」 アフリカ

世界との交錯のなかで

弘前大学資料館第22回企画展

2019 6/1 sat. – 7/20 sat.

10:00 – 16:00 (日曜・祝日休館)

会場 弘前大学資料館

入場無料



主催：弘前大学人文社会科学部、日本アフリカ学会東北支部会
 共催：弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター、NPOアフリック・アフリカ
 問い合わせ先：弘前大学資料館（0172-39-3432、jrn3432@hirosaki-u.ac.jp）



Ⅶ.1

弘前大学資料館 第22回企画展
 「装うアフリカ―世界との交錯のなかで―」

“装う”アフリカ —世界との交錯のなかで—

【会場】 弘前大学資料館企画展スペース

【会期】 2019年6月1日(土) - 7月20日(土) 10:00 - 16:00 日曜・祝日休館 入場無料



アフリカの人たちのオシャレやアートは、世界との交錯のなかで、自由に花開いてきました。古代から交易・交流をとおしたヨーロッパやイスラーム世界とのつながりが、また近年では急速にすすむグローバル化の影響が、装いの端々に現れています。他地域のモノや流行を取り込みながら、自在にかつ創造的に生みだされる装いは、「閉じている」「伝統に固執している」イメージとはかけ離れています。この展示では、そんなアフリカの生活や文化の魅力を紹介します。

展示内容

1. オシャレを楽しむ

アフリカの人たちは日常のなかでどのようなオシャレを楽しんでいるのでしょうか。布や衣服、装飾品などを展示します。

2. アフリカン・アートの^{いま}現在

暮らしと民話をカラフルに彩るアフリカン・アートの現在を紹介します。

3. モノから世界が見えてくる

アフリカのオシャレやアートをよく見ると、世界とのつながりに気づきます。



関連イベント (B,Cは事前に資料館まで要申込、いずれも参加費無料)

- A 「音を装う」 サカキマンゴートーク&ライブ
2019年6月4日(火) 18:30 - 20:30
講師：サカキマンゴー (親指ピアノ演奏家・研究家)
会場：かだれ横丁多目的ホール (弘前市百石町2-1)
※ホールでドリンク1杯以上ご注文ください
- B 「布で装う」 カンガ布の着方・使い方ワークショップ
2019年6月26日(水) 14:30 - 15:30
講師：杉山祐子・近藤史 (弘前大学人文社会科学部 教員)
会場：弘前大学資料館、先着15名まで
- C 「装う精霊」 アフリカ絵巻ギャラリートーク
2019年7月5日(金) 14:30 - 15:30
講師：金山麻美 (アフリカ随筆家、JATA Tours)
会場：弘前大学資料館、先着15名まで